

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
52	川崎市立はるひ野中学校	伊藤 敏明

学校教育目標	学校経営の目標	中期経営目標(R5～R9 5年間)
<p>小中で共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分を生かして豊かに生きる ○思いやりをもって生きる ○心身ともに健やかに生きる ○人々とともに生きる <p>[知力] (楽しく学ぼう) [心情] (助け合おう) [体力] (明るく生活しよう) [小中連携] (だれとでも仲良くしよう)</p>	<p>「小中連携」と「ハートフルはるひ野プラン」の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知力：確かな学力を育てる教育の推進 ○心情：豊かな心を育てる教育の推進 ○体力：健やかな体を育てる教育の推進 <p>○小中連携：小中連携教育と地域とともにある学校づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> □知力 ○資質・能力の3つの柱を育成する教育の推進 ○個に応じた支援教育の推進 □心情 ○人権尊重教育の推進 ○自他を尊重する思いやりの心の育成 □体力 ○健康・安全教育の推進 ○食育の推進と健康な身体の育成 □小中連携 ○小中連携教育活性化 ○学校運営協議会による学校改善の推進と開校20周年準備 ○家庭・地域社会と連携した教育の推進

<p>今年度の経営目標</p> <p>小中連携教育の活性化と個に応じた支援教育の充実改善</p>	<p>1 (知力) ①生徒の資質・能力の3つの柱の育成 ②個に応じた支援教育の推進 2 (心情) ①人権尊重教育の推進 ②道徳教育の充実 ③生徒主体の生徒会活動の推進</p> <p>3 (体力) ①健康・安全教育の推進 ②教育相談の充実 ③食育の推進 ④適正な部活動の推進 4 (小中連携) ①小中連携教育の推進と活性化 ②地域と連携・協働した教育の推進 ③学校評価による学校改善</p>
--	--

	今年度の目標(評価項目)	具体的な手立て	成果と課題	具体的な改善策
1 (知力)	<p>①生徒の資質・能力の3つの柱の育成</p> <p>②個に応じた支援教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付ける資質・能力を明確にした授業の実践 ・技術・家庭科研究推進による授業力向上 ・SDGsを踏まえた総合的な学習の時間の充実 ・ICTの有効活用とGIGAスクール構想の推進 ・UDLの共通理解と推進 ・生徒一人一人の教育的ニーズの把握と早期対応 ・通級、入込、取出授業等、個に応じた支援の実施 ・保護者と連携した合理的配慮の提供 ・個に応じたきめ細やかな指導実施(数学:TT、習熟度別・保体:TT) 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭科の2年間の研究推進のまとめとして授業公開および報告会を行った。他教科等も含め、「主体的対話的で深い学び」を実現する授業について研究成果を発表することができた。 ・小5中1ブロックの総合的な学習の時間でSDGsの視点を取り入れながら食農教育を明治大学黒川農場と連携しながら推進することができた。市制100周年の取組「学校×ね★サミット」サポに中学1年生の学習成果を掲載する。 ・生徒用デジタル教科書活用(英語)を含め、各教科等でGIGA端末を積極的に使い、ICTを活用した授業を進めた。 ・授業のUD化を推進することができた。取組に差がみられ不十分ところがあった。 ・生徒会と連携し、各委員会がより安心安全な学校生活を送れるよう取り組んだ。 ・外部講師の招き、学年ごとに研修を実施し、適切な支援につなげた。 ・習熟度別指導やTTにより、きめ細やかな指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の研究推進で得られた成果を継続し、全教科のねらい達成に向け「主体的対話的で深い学び」を実現する授業を実践する。 ・小5中1ブロックの総合的な学習の時間で明治大学黒川農場と連携した食農学習を定義・発展させる。 ・生徒用デジタル教科書の有効活用とICTを活用した授業改善を引き続き推進する。 ・授業のUD化を進め、一次支援の徹底を学年、教科、生徒会で実践し、より安心安全な学校生活を送れるようにする。 ・外部講師の指導助言を継続的に受け、適切な支援を行えるようにする。 ・小中の支援教育CO、生徒指導担当の連携を密にし、一貫性のある支援体制を強化する。 ・習熟度別指導とTTを実施可能な教科で取り組む。
2 (心情)	<p>①人権尊重教育の推進</p> <p>②道徳教育の充実</p> <p>③生徒主体の生徒会活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルはるひ野プランの推進 ・いじめ防止基本方針の遵守と不登校生徒への組織的な対応の推進 ・アンケート、教育相談による予防的対応の充実 ・「共生×共育プログラム」による人間関係づくりの実践 ・「考え、議論する道徳」の実践 ・各教科等と関連した指導実施 ・生徒会活動の活性化 ・児童会と生徒会の連携 ・挨拶励行、清掃等奉仕的活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生×共育プログラムと効果測定を計画的に実施することができた。測定結果の活用は不十分だった。 ・「いじめ防止早期発見」について職員研修を実施し共通理解を深めた。 ・道徳教育ではローテーション授業を実施し、学級担任以外も授業を行い全職員で道徳性の育成に努めた。また、評価方法を統一することができた。 ・生徒会を中心に評議員会で生徒の主体的な話し合い活動を行い、各委員会の取組につなげることができた。 ・児童会と生徒会が連携した朝のあいさつ活動を実施することができた。 ・委員会活動を通じたあいさつ運動や朝清掃を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生×共育プログラムと効果測定を計画的に実施し確実に活用していく。 ・人権尊重に関わる職員研修や生徒への講演を実施し、いじめ防止や人権意識向上につなげる。生徒主体のいじめ防止の取組を継続する。 ・ハートフルはるひ野プランを基本にキャリア在り方生き方教育を推進する。 ・他教科を含め、全ての教育活動と道徳の授業と関連付けて道徳性を養う。 ・道徳授業を大切にし、「考え議論する場」として確実に実施する。 ・生徒主体の活動を促進し、児童会と生徒会の連携交流活動を活性化させる。 ・委員会活動と連動した生徒のボランティア活動を引き続き推進していく。
3 (体力)	<p>①健康・安全教育の推進</p> <p>②教育相談の充実</p> <p>③食育の推進</p> <p>④適正な部活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの周知徹底と実用化 ・感染症、熱中症、薬物乱用防止体制の確立 ・情報モラル教育の充実 ・定期的な教育相談実施による生徒支援の強化 ・スクールカウンセラーと連携した教育相談の充実 ・食を大切にする心の育成 ・地域に根ざした食育推進 ・給食における事故防止 ・生徒、教員の負担を考慮した活動実施 ・休養日実施の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年年度整備した危機管理マニュアルに修正を加え体制を整えた。各種避難訓練を予定通り実施することができた。防災引き取り訓練を年度初めの5月に実施することができ、年度内の緊急時に備えることができた。 ・情報モラル教育については外部団体「教育ネット」の出前授業を取り入れ、生徒の実態に即した内容で授業を実施することができた。 ・アンケートによる教育相談をいねいに行い、必要な支援につなげた。 ・2学年で食に関する授業を学校栄養職員と連携して行い、食の大切さへの意識を高めた。 ・給食時における感染防止指導を徹底し安全な給食時間を確保した。2月に入りグループ喫食を再開させることができた。 ・部活動活動方針に従いながら充実した活動をすることができた。 ・外部指導者を新たに取り入れ専門的指導の充実と教員の負担軽減を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの点検、修正は年度初めに必ず行う。防災引き取り訓練と集団下校訓練は引き続き年度初めに実施し、年度内の緊急時に備える。 ・情報モラル教育については、今後も外部団体等の力を借りながら、新たな課題に対応できるように全学年で実施する。 ・教育相談から、必要な支援にすぐにつながるよう生徒指導担当、支援CO、SCが連携して個別の支援計画を立て全職員が共通理解し、対応できるようにする。 ・総合的な学習の時間と連動し、地域の特色を生かした食農教育を進める。 ・部活動については、引き続き休業日の確実実施等、ガイドラインに沿った適切な運営を行う。
4 (小中連携)	<p>①小中連携教育の推進と活性化</p> <p>②地域と連携・協働した教育の推進</p> <p>③学校評価による学校改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携活動の推進 ・日常的な交流活動の実践 ・小6プレ部活動実施 ・小中教職員合同OJT研修実施による連携強化 ・学校運営協議会を中心とした教育活動の実践 ・地域行事への協力 ・地域教育会議(地域学校協働本部)との連携強化 ・開校20周年への準備 ・学校評価アンケート実施 ・学校運営協議会での協議による学校改善推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツフェスティバルやアートフェスティバルは昨年度の内容を修正改善し、今後の基本的な形を構築して実施することができた。 ・年9回のプレ部活動実施が2年目となったが、小6と中学生をつなぐ機会となっている。参加人数の配分や生徒による広報活動ができなかったことが課題である。 ・小中職員の合同での授業研究会は行われ授業改善につながった。授業以外の教育的課題についてのOJT研修の機会を持つことができなかった。 ・はるひ野町内会の夏フェス準備に生徒も含め協力することができた。 ・地域教育会議が主催する星空ウォッチングやクリスマスチャリティコンサートに協働して取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携活動を生徒主体の活動になるよう修正を加えながら発展させる。 ・プレ部活動への参加の仕方を検討し、より教職員、児童生徒の小中連携を深めて実施できるようにする。生徒から児童への働きかけも行う。 ・小中教職員が協働して教育課題を検討する機会を増やし、川崎市の小中連携校としての取組をより活性化させる。 ・学校運営協議会と地域教育会議との連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ・開校20周年に向け準備を進める。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○学校評価アンケート結果から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答が、児童・生徒、保護者、教職員共に8割を超える状況となっていて、教育活動が良好であることがわかる。小中連携活動に関しても9割を超える生徒が前向きに取り組んでいることが分かり、本校の特色が表れている。 ・保護者のいじめや不登校に関する設問に対して3割が「わからない」と回答している。設問が「学校は、いじめ・不登校への組織的な対応を行うため、家庭との連携に努めている。」となっていて、「いじめ・不登校の状況がなければ、そうした連携が行われることはないため、「わからない」との回答が多くなっていると考えられる。 ・地域のよさに関する設問は、1年生の肯定的な数値が高く、総合的な学習の時間で明治大学黒川農場と連携した学習を展開できたことが要因と考えられる。引き続き、地域に根ざした学習を大切にしたい。 ○子どもたちに必要な資質能力を、学校と地域とで育んでいくことが大切である。問題を見つけ、考え、協働して解決する力が求められている。また、自らの学習の状況を把握し、児童生徒が主体的に調整する力を育むことも大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍後、制限のない中で、小中連携の諸活動を活性化することができた。修学旅行や自然教室、職場体験などの校外活動も予定通り実施することができた。5月の連休明けからはコロナ禍前に行われていた諸活動を実施することができ、生徒は様々な場面で充実した時間を過ごせたと思う。 ○小5中1ブロックの総合的な学習の時間で明治大学黒川農場と連携した食農学習を新たに始めることができた。今後、はるひ野中学校の特色ある体験学習、活動として定義・発展させていきたい。 ○GIGA端末等のICTを活用する学習が定着してきている。授業場面だけでなく、家庭での活用も含め、支援が必要な生徒にとっても多様な学習活動が期待できるものであり、学校全体で推進していきたい。 ○コロナ禍で制限されていた活動が今年度はすべて解除され、9年間を見通した教育活動を再び推進できる状況となった。令和5年度に活性化した様々な活動をコミュニティスクールとして学校・家庭・地域が一体となって発展させていきたい。